



石神井南中学校 学校だより

令和 元年度 第 3 号
発行日 6月26日(水)
練馬区立石神井南中学校
校長 田 邊 克 宣

1 学期を振り返って

校長 田邊 克宣

「家の作りやうは、夏をむねとすべし」。

これはご存じ、徒然草の有名な一節です。鎌倉時代の昔より、日本の高温多湿には堪えがたいものがあつたことを窺わせるに十分な一文ですが、それから700年近くを経た現代の状況にまでは、さすがの兼好法師も考えは及ばなかつたことでしょう。

日照り、豪雨に地震や雷と、古来、日本では天候や自然の変動に対しては、受け容れがたいそれらと共にある中で、よりよい暮らしを作り出そうと知恵を絞り、その知恵を代々受け継いできました。現在では、気候変動等の自然現象に限らず、プラスチックゴミによる環境汚染といった人為的な事柄に対しても、我々が一人一人できることを、今、考え、実践していくことが、未来へ残し、未来を創る者の責務です。

石南中生には折りにふれ、すべて自分事として捉え、考え、実践する力を付けてもらいたいと伝えていますが、4月からの3ヶ月間で、生徒たちは確実に成長してきました。

運動会では、雲一つない炎天下、熱中症にかかることなく全員で成功させることができました。体調管理をしっかりとしながら全力でやり遂げられたことは、気力と体力両方の充実あつてのものです。

その翌週には、3年生が広島・京都の修学旅行に行ってきました。行程上、若干不安な部分もありましたが、3年生たちは皆、その心配を杞憂に終わらせてくれる素晴らしい行動を示してくれました。これから進路選択に向けて一人一人の取組が始まりますが、仲間と共に、確かな自分の道を見付けていってくれることを信じるに足る、中学校最後の宿泊行事でした。

2年生は職場体験に向けて、そして1年生は臨海学校の準備と、それぞれ着々と進めています。

各学年・学級が、やるべき事に焦点を定め、一人一人が目的意識をもって取り組んでいるからこそ、石南中は落ち着いた学舎として日々の学校生活を営んでいけるのだと思います。

こうした学校での教育活動において、やはり家庭、地域の教育力に助けられていることを強く感じております。家庭での躾、地域による育成、学校教育の三者が一体となつて、石南中の子供たちを日々、育てているのです。1学期中は、運動会、授業参観、PTA活動と、たくさんの方にご来校いただきました。保護者が互いに、また地域の中で顔見知りになることで、一人一人の子供たちに全ての大人が関わり、共に育てていく石南中にしていきたいと願っています。

さて、6月17日(月)より学校電話の応答メッセージ機能が練馬区小中学校全校で運用実施となりました。ご不便をおかけすることもあるかと存じますが、学校と家庭、また地域のそれぞれの役割・責務を明確にする上で必要かつ有効な取組であると考えます。石南中の生徒として、また、地域の子供として、一人一人をよりよく育てていくためには、教職員・保護者・地域の大人がどう関わっていくことがよいのか、大局的な視点をもって見直す絶好の機会です。子供たちのよりよい育ちのために、ぜひ、忌憚ないご意見をお寄せください。

1学期中の本校教育活動へのご理解とご協力に、感謝申し上げます、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度のスローガンは「新時代とともに勝利の道を切り拓け」でした。このスローガンのもと、令和時代の幕開けにふさわしい立派な運動会になりました。

今年は10連休と開催時期が早かったことで、準備・練習期間が短く、当日まであっという間に時間が過ぎていきました。そんな状況の中でも、生徒たちは運動会実行委員会を中心に一生懸命練習に励んでいました。特に学年団体種目への思いは強く、休み時間などを上手に利用して作戦会議や練習する姿が多く見られました。本当によく頑張っていました。運動会を通じて築いたクラスの団結力や仲間との友情をこれからも大切にしていってほしいです。

